

平成 30 年度第 1 回石狩市行政改革懇話会

日 時：平成 30 年 6 月 7 日（木）10：00～

場 所：石狩市役所 3 階 庁議室

出席者：次のとおり

委 員			職 員	
役職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会長	角川 幸治	○	（事務局）総務部長	及川 浩史
副会長	飯尾亜紀仁	○	（事務局）総務部情報政策課長	森本 栄樹
委員	能村久美子	○	（事務局）総務部行政改革担当主査	鎌田 晶彦
委員	松谷 初代	○		
委員	上木 智子	○		
委員	運上 昌洋	○		
委員	東 幸子	○		
委員	本間 貴士	○		

傍聴人：2 名

次第 1 開会宣言【事務局：森本課長】

次第 2 委員・事務局の自己紹介

次第 3

議題 1 正副会長の選任について

【事務局：森本課長】

懇話会の設置の要綱では、委員の互選ということになってございますが、事務局から指名させて頂きまして、委員皆様の承認を頂いて互選に変えさせて頂いているという流れでございます。事務局提案としまして、会長に角川委員、副会長に飯尾委員を指名させて頂きますが、よろしいでしょうか？

<協議結果>

全会一致で承認

【事務局：森本課長】

議事録作成方法について協議を提案

①一言一句を記載する方法

②要点をまとめて記載する方法

<協議結果>

全会一致で②の方法とする。但し、要約し過ぎないで支障ない限り発言を活かすこと。

【角川会長、飯尾副会長から就任のあいさつ】<以降は角川会長が議事進行を行う>

【角川会長】

皆さん、改めまして。本日は大変お暑い中、お集まり頂きまして有難うございます。また会長をやらせて頂きます、角川でございます。改めてよろしくお願いいたします。

先程、自己紹介で軽くお話しさせて頂いたのですが、行政改革懇話会は、気が付けば本当に今期で6年目ということになってございます。最初はですね、前任の副会長がですね、教育委員に転身したということで、その代わりに私が呼ばれて、いきなり副会長ということで、何も分からず参加したのが1年目、ただその時にですね、前任の、私も非常に尊敬申し上げている辻先生が会長を長年勤められておりまして、わずか1年ではございますけれど、辻さんの薫陶を若干頂いたかな、という1年でございました。その後、辻先生が引退をされて、急遽「あなたがやりなさい」ということで、2年目から会長ということで、気が付けば2期4年間が過ぎたというところですよ。辻先生の時は、私などとてもレベルに及ばない内容で、非常に理解出来なかったという印象か、難しすぎて、レベルが高すぎて理解出来なかったもので、ついて行くのに精一杯かな、という印象があったのですが、私になりましたから、知識も経験も本当に不足しているのですけれど、自分なりにやれる方向性、内容、またどっちかといえば少し硬いかな？という懇話会のイメージがあったので、わたしになってから結構柔らかくというか、もっとフランクな意見交換が出来る様に配慮させて頂いたつもりであります。それが良いかはわかりませんが、ただ内容に関しては、例えばKJ法を用いた議論を試みたり、或いは実際に活躍されている運上さんのところへ訪問させて頂いて活躍している企業、個人の皆さんのところへ現地視察をして、実際に目で見て体験しながら勉強する。それを議論に活かしていくという、そういうやり方も取り入れさせて頂きました。

会長として次は3期目ということになるんですけど、更にその部分を推し進めていければな、という風には考えております。それと、前回も良く懇話会の中でお話しさせて頂いたのですが、どうしても、こう、行政の仕事というのは、広く、また深くという内容が問われる、まあ、それは当然しょうがないんですけど、ただあれもこれもとなると、やっぱり分散化してしまいます。ある程度は、これ私いつも言わせて頂いている、やらないこともやっぱり決めていった方が良く。これは出来ない、出来ないことは、はっきり出来ないと言明してしまうと、曖昧にしない。その代わりやらなければならないこと、本当に必要なことは、ある程度深く、狭く深くではないですけど、追求していくというやり方も一つの方法じゃないかな、という風に考えております。

また、部長からも、ＩＣＴ、働き方改革のお話がありました。まあトレンドという言い方がふさわしいかどうかは和からないんですけども、これは大きな問題です。働き方改革が国の施策でもありますし、各自治体でも強く推し進めているところです。もちろん、人材不足、若手不足という大きな問題も、企業の中ではありますけれど、市役所の中でもそれは大きな問題ということで、前年度も実例を通じてお話を頂いたかな、と思います。

やっぱり働き方改革をしないと、若い人は来てくれません。前年度も非常に私、驚きを感じたんですが、部長のお言葉の中で、市役所を選ぶ方が本当に少なくなったということで、一昔以上前からすると、本当に考えられないことです。これも、行政の仕事に、市役所の仕事に、やはり魅力を感じて頂くことがまず一つかな、という風に思っていますし、やはり市長の考え方、ビジョンを職員皆さんにしっかり落とし込んでもらって、その実現のために一人一人がやりがいを持って働いてもらう、そういう形にしなければならない。それでいて、もちろん時短だとか残業を無くすとかいう取組みも必要ですので、そういう意味でＩＣＴを存分に使うという方向が、最もわかりやすいかな、という風な気がしております。

最後にですね、この何年かで経費を削っていくという発想はだんだん少なくなっている。無駄な経費を削減してゆく。これは勿論行革の中で非常に大事なんですけど、そういう発想よりも、いかにマンパワーを活かしながら、一人一人の力を活かして仕事の効率を上げてゆくかということにシフトし始めているというのは非常に良いかなという風に感じておりますので、この方向性もこのまま引き継いで、更に推進していければな、という風に思っております。まあ、二年間ということなんですけれど、またお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

【飯尾副会長】

副会長に選任されました、飯尾でございます。私も２年前にこちらの角川会長からお誘いを頂いております、二年間本当に勉強になりました、本当に自分自身には凄い勉強になったなと思っております。また、ささやかですが、会長を支えながら皆さんと忌憚のないご意見を共有できる様に、影ながら努力させて頂きたいと思っております。よろしくお願いいたします。

次第 3

議題 2 行政改革 2021 実施計画（平成 29 年度版）の実績報告について

【角川会長】

本日の議題のメインとしてはですね、この新体制での顔合わせということももちろんありますが、もう一つは平成 29 年度版の実施計画の実績報告ということになります。

それでは、実施計画平成 29 年度版の実績報告について、事務局からよろしくお願いいたします。

します。

【事務局：鎌田】

(1) 市民協働の更なる推進

1. 市民と協働によるまちづくりの推進

協働事業提案制度として放課後、児童を対象にした運動能力向上のためのプログラムや食育指導を行いました「放課後すこやかスポーツ教室」のほか子ども食堂や学習支援活動などを通して、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを進めた「地域における子どもの居場所づくり事業」など5つの継続事業を実施しました。地域おこし協力隊は、5月から厚田区に2名が着任し、お米ゼミナールや小学校での音楽指導など、食と音楽による地域活動を行いました。

2. みんなで進める観光まちづくり

子ども用観光パンフを作成し公共施設のほか市内小学校へ配付、「さけまつり」では、市内中学生の参加企画によるご当地クイズやサケ掴み取り実況が実施されました。

一般公募ボランティア「市民観光サポーター」による観光情報PRのほかボランティア向けスキルアップ講座を実施しました。

3. 審議会等への女性登用

委員割合を高める取組としまして、女性人材リストを作成し庁内に周知しリストを閲覧できる環境となっています。平成29年度の実績は34.9%となっています。

4. 魚つきの森プロジェクト推進事業

「菊池の沢川」を通じて海との連携をコンセプトとしました魚つきの森2ゾーン、2ブロック地区で草刈を7,720㎡、地拵え（じごしらえ）3,000㎡、下刈（したが）り）36,000㎡を行い、その後、苗木を市民と協働で植樹しています。

5. 地域自治システムの構築

前年度から実施している、ふれあい給食、防犯パトロール、合同避難訓練、歩道除雪事業等のほか、新たにふれあいサロンや福祉送迎を実施しました。ふれあいサロンは市内の公園内で6～11月（週3回）開設、デジカメ操作やマージャン教室などを行いました。また福祉送迎は北6条町内会でドライバーを確保し事前に利用者とドライバーで協定書を締結、ドライバーの自車で通院や買物に使用しました。

6. 住民どうしの新たな支えあいのシステムの構築

地域ニーズを探るため、高校生以上の住民を対象として1,500人に「厚田区の課題」や「今の生活で不便を感じる事」などを質問しました。回収率は約90%となっています。先ほど2つの質問では、どちらも買物が1番多い回答となっていました。

単1. 自治基本条例の見直し

石狩市自治基本条例懇話会を6回開催し、基調講演やワークショップを開催。また、パブリックコメントを実施しました結果、条例の条文については改正の必要はないとの結論に至りました。但し、自治基本条例解説は、一部変更を実施しています。

【角川会長】

ここまでの中で、皆さん何かご意見、ご感想も含めて、或いは確認しておきたいこと、何でも結構ですので、ご意見の方、よろしくお願いします。

【能村委員】

ちょっと本題から外れるかも知れないのですが、資料2という資料が凄く良いと思います。何か新しいというか、これをやっている時に、いつも細かい話を段々としていくうちに、今って何を話しの為にこういうのを出し合っていたのだろうか、ゆくゆくどこに行き着けば良いのだろうか、という目線を私自身よく忘れるんですけど、今日改めてこの資料2に沿って今年の運営はこういうものだよ、そして、日程のところは4回出て、こういう風に歩んでゆくよ、っていうのが見えて、何かとても良いなと思いました。

数少ない会議ですから、そこに向け次に何を考えれば良いか、例えば今もそうなんですけど、いきなりこう言われて最初に皆が口を開けないのは、やっぱりそのじゃあ何を考えてくれば良かったんだっけ？というところが、意外とボヤッとしたまま今日を迎えていて、ここをチェックして来て欲しい、とか、こういう点で身近なことで感じることは無いかな、という振りを頂けるとより最初の口火が切り易くなると思います。

【角川会長】

有難うございます。さすが能村さん、この間に皆さん方一つ一つ出てきたんじゃないかと、繋ぎじゃ無いですよ。はい。例えばですね、2番目の「皆で進める観光まちづくり」私からきっかけを作らせて欲しいなと思っているんですけど、最近ですね、ちょっと大規模なイベントの方でちょっと元気が無いかな、というイメージがあります。

鮭祭りに関しては毎年継続的に同じような人気で続けられているんですけど、冬の祭り、これも良く私挙げさせて頂くんですけど「寒中屋台村」という、石狩J.C.の事業も無くなってしまったということ、或いはこれも確認した訳では無いんですけど、

大きな夏のイベントの「いしかりまるごとフェスタ」が日程が縮小、2日間を1日開催、そんな形で今進めているという風に伺っています。

【及川部長】

いしかりまるごとフェスタは、会場地周辺に風車が立ち今までフェスタ直前にライジングサンというロックフェスティバルがあつてそこを上手に使い分けていましたが今後は同じ会場を使う事になりライジングサンの撤去とまるごとフェスタの準備が重なる関係もあつて今回は土曜日の1日開催となったようです。

【角川会長】

ライジングサンロックフェスティバルは、本当に全国レベルのイベントで知名度も圧倒的にありますし、集客というか、来場者も凄いですけど、地元密着の事業かという、ちょっと方向性が違う気がします。

「まるごとフェスタ」は、地元の地場産業の方が出店をして、或いは子供たちを含めて楽しむという地元に関わりついた、石狩に非常に密着性の高いイベントということで、長年実施されてきたのですけれど、恐らく土曜日だけだったら、花火祭りという感じになってしまいますよね。これで果たして良いのかな？やはり行政として、何かしらの助言なり協力なり、方向性の導きなり、何でも良いからちょっと考えて頂きたいな、という風に思うんですけれど、いかがですかね？

【松谷委員】

ちょっと外れるかもしれませんが、行政改革懇話会に入らせていただいて5年目とお話したのですけれども当初は半分だけ市議会議員になられた方がいて1年だけやっていたんですよね。この全体の流れを見ていると最初は「市民協働の更なる推進」を懇話会内で話し合ってきた経緯があると思うんです。事務局の話を伺うとそれにプラスして「ICTの推進」や「働き方改革」ということを含めて大事にしていかなければならない視点ができた意識しています。具体的話になりますと、先ほどの「市民協働の更なる推進」の自治システムの構築のモデル地区である北6条町内会のドライバーが自車で通院や買い物へというシステム、今後、高齢者が多くなり運転免許を返納することがあっても買い物や通院が出来るこういったことが色んな町内会で始められると高齢者になっても安心できます。そこで質問ですが自分の自家用車に知らない人を乗せる際、協定をという話があったと思うんですが、協定とは？

【森本課長】

基本、タクシーとかという免許持っている方が、仕事で他人を乗せるということ自体は良いんでしょうけど、私の記憶では、知らない人をお金をもらって乗せる場合につい

ては、国の許可が必要になる訳ですよ。たまたま友達同士で乗せてあげますよ、ということであれば、特別な許可はいらないです。その例としましては、厚田の方でライフサポートの会というNPO法人が、国の許可を得て他人を、自分の自家用車へ乗せてお金を取るという仕組みを取っているんですけど、許可に当たってはですね、利害関係者の合意が必要となっています。

要するにタクシー事業者とか、バス業界の方が営業のダメージを受けますので、協議会を作り、事業者から営業の邪魔にならないというんですか、タクシー業界も送迎が難しいという様な条件とか、色々な法律の制約の中で同意をもらう。当然厚田ライフサポートの会の時も、タクシー事業者や中央バスへ入ってもらいました。当然、お金もらうのであれば、法律などの色々制約があった中でやる。厚田ライフサポートの会も、最初お金を取る前、1年間はですね、無償でやっていたんですよ。無償で実際やれるかどうかを試してやってですね、実際やれそうだとということで、協議会を作って、色んな利害関係者に入ってもらった中で、お金を取ったらいくらになるか、という精算も全部見越した上でした。過疎地有償運送事業の許可を得ています。それから、無償であれば、確か私の記憶では許可が確かいない。ただ、当然責任関係が出てくるので、事故があった時、当然自分の保険を使います。厚田ライフサポートの会は確か自分の保険を使うことになっています。導入する時に言われたのは、前の日、お酒沢山飲んだらアルコールチェックちゃんとやりなさいよだとか、そういった色んな厳しい注意を受けながらやっているのが実態です。以上です。

【松谷委員】

北6条町内会でやっているのは無償で、そういう責任っていうのは、事故起きた場合とかありますよね。人乗せた際、それはどんな風になっているのですか？

【森本課長】

詳しくはわかりませんが、例えばスポーツの団体とかでも隣の子を乗せていくとか、良くありますよね。というのは、ある程度良いですよ、というか、お互いの関係の中で、無償でやっているのかな、という風に思います。お金を取ってちゃんと責任も、というのをやられた方が良いと思いますが、そうすると、ハードルも、あがることになりますから、多分近所の人なら近所の人で良いんですよ、という事で乗せていくということであれば、何も許可は要らないはずだと思います。責任あった時は、そこはちゃんと明確にしておかないと、何か事故があって怪我があった時には、ちゃんと道交法上、問題が出てくると思います。

【角川会長】

よろしいですか？北6条町内会って、キタロックカフェってご存知ですか？総合戦略

懇話会の竹口さんが加入されて、その方がメインで北6条の公園に、高齢者が集まるカフェを作っているんですね、えっと、色んな活動をされている。

実はその総合戦略懇話会で、そこを訪問したんです。で、実際の活動を見たんですけど、素晴らしいです。かなり高齢な方々が集まって、まあベテランの方々なんですけれど、地域ボランティア、或いはそういう集いの場の提供、或いはイベント、お祭り関係とか、色んなことをされている。ものすごく盛り上がっているんです。大規模なイベントはしないんですけど、ここの地域自治システムの構築だとか、或いは住民同士の新たな支え合いのシステム、大きく繋がってくるので、是非訪問してみるとか、非常に面白いかな？と思いましたね。ビックリしました。

【森本課長】

自治システムは、町内会のマンパワーとか財源的なものが厳しいので、5～6の町内会がまとまって竹口さんが、全国の自治体の事例を見て、研究してみましようということで、検討会を立ち上げて、モデルでまず3年始めましようということで、進めている取組みでございます。町内会の活動と、重なるところはありますが、やはり大きくなれば、本当にマンパワーや財源的なものが生まれるということ取組みを、竹口さんを中心にやっていると、私は記憶しております。

【角川会長】

結局、市で管理している公園に、プレハブを置いて、そこでまあ飲食とかも出来る、あの、一般の方が、10円とか50円とか払いながらコーヒーを飲む、それはやっぱり市役所の許可が無いと出来ないことですね。普通はですね、これで商売するってことに近いので、きっちり竹口さんも、段取りを踏みながら、説得したのか分かりませんが、それを認めて頂いた市役所の対応もすごく良かったんじゃないかな。という風に私は感じました。色んなハードル、絶対にあったはずなんですけどね、こういったところから色んな活動の広がりが生まれてくるのかな、何でも規制、規制をするんじゃないかって、その主旨とか意図を理解出来れば、或いは市民皆さんの利益、利益というか為になるのであれば、どんどんその辺も認めていって頂きたいな、と思っています。

【運上委員】

この何年かすごく感じていることが、地域課題が凄く増えてきているというところがあって、ただ、その地域課題を地域に委ねる、今、色々な活動をされている方に、地域に委ねる動きはすごくあると思います。ただ、高齢化も進んでいて、地域力もあと10年後、どうなっているんだろうかというところを、すごく考えておまして、その地域力が下がるのに、地域に委ねるという動きが今あって、それに対してどういう風な対応をするのか。私、介護事業をやっていると、すごく地域に委ねるという動きが、予算も

無くなってきているというところもありますので、すごく感じておりまして、なので、地域力をどう作っていくのか、がんばっている人達は、本当頑張っていると思うんですよね。今のお話しも聞いてそう感じました。ただ、次世代がどういう風に頑張っていくのか、というところの繋がりも作りながらやっていかなきゃならないかな、あと、地域で課題になっているっていうのが、やはりモビリティというか、移動ですね、福祉輸送というか、今お話しも出てましたけれども、やはり買い物に行けない、石狩花川地区でも、なかなか行くのが大変だということは十分あるのかな、北海道以外のところでも、色んな活動されている人達がいて、今月末高知へ行ってみたいかな、と思っているんですけども、そこは商店街をみんなで移動できる、カーモビリティということをしているんですけども、商店街に行ったら自由に自動の電動車いすも乗れるよ、と。そこは本当に商店街で出来上がっているもので、地域で商店街と町内会とか全部、連動し合っている。

石狩市内は、すごく色んな良い活動されている。町内会、商店街、あるんですけど、そこも連動しながら、それは行政と一緒にやっていかなければならない。買い物問題はいくつかの対応策はあるとは思いますが。ただ福祉輸送も無いので、無かったら作ろうかということで、うちの会社も福祉輸送の申請を先々月ぐらいにしまして、輸送できる様にしようということで、タクシーの許可も今、申請中なんです。ただボランティアに全部委ねるとするのは、難しいと思いますので、その辺の制度をどういう形で作っていくのかっていうのを、行政含め、地域で頑張っている企業も含め、非営利団体の町内会も含め、一緒に考えていく、というのが必要なのではないのかな、という風に考えています。回答になるかどうかかわからないですけど。

【角川会長】

有難うございます。運上さんはすごく行動するんですよね。色んなこともわかるから、貴重な情報を有難うございます。先に進めていきたいと思います。

【事務局：鎌田】

(2) ICTの効果的な活用

1. クラウド技術を活用した情報化の推進

高いセキュリティレベルの自治体情報セキュリティクラウドの構築及び運用を開始した。また、国の説明会に出席するなど、自治体クラウドの調査を行ないました。

2. 電子自治体の推進

モバイルワークやテレワークに関して検討する「ICTを活用した柔軟な働き方の検討」や先ほど「クラウド技術を活用した情報化の推進で報告しました「自治体クラウドの検討」など継続指針に基づき新たな電子自治体推進指針を策定しました。

3. 休業・休職者の復帰支援及び人材育成

研修で先進自治体事例を確認し課題・問題点を整理しました。

4. マイナンバーによる市民サービス向上

システムの構築をおこない、平成 29 年 11 月よりマイナポータル及び利用者のマイナンバーカードで認証した情報を基に子育てに関する受けられるサービスを把握することができる「子育てワンストップサービス」の運用を開始しました。

5. 統計情報や庁内情報を活用した政策展開

各課で持つ各種庁内情報を全庁的に把握できるよう集約し、どの課でも閲覧できる環境を構築しました。

【角川会長】

I C Tの項目と活用について5つありますが、この中から、1つ2つぐらいご意見を頂ければな、という風に思っています。いかがでしょうか？

【上木委員】

今朝の新聞に載っていたのですが、マイナンバーのカード、石狩市も申請したけど取りに来ないとかいうのはあるんですか？

【及川部長】

実際にはあるのではないかと思います、数字は事務局で押さえていないです。

【上木委員】

これは新聞情報ですけど、子育てに関しても、マイナンバーカードを使えば、スムーズに申請が出来るとうたっていますけれど、実際に色んな手続きをする時に、人と会って手続きを進めていかないと、上手くいかないだろう、みたいな情報がのっていたんですけど。

【及川部長】

電子機器を使ったやり取りという部分については、あくまでも聞かれたことに対する回答となりがち。やはり、顔を付き合わせることによって、また言葉のやり取りの中ですね、別なことも聞いたりも出来るので、それはそれで、やっぱり重要なことなのではないかと。

【上木委員】

そうですね。

【及川部長】

ただ、窓口へ行けない方もいらっしゃいますので、電子機器を使ったサービスで、色々な選択肢を持てるのは、非常に重要なことと思っています。

【角川会長】

マイナンバーに関しては、この懇話会のなかでも議題に挙がるのですが、活用状況の有無。条件についても色々議題になっていますよね。恥ずかしながら私もほとんど使ったことがありません。という事で、ＩＣＴに繋がることでいつも話を出して申し訳ないんですけど、個人の印鑑証明書を取得する自動交付機、業者が撤退して廃止になり、従来の窓口申請という事で窓口に人が多くなった印象があります。働いている人はなかなか窓口へ行けないので自動交付機は良かったと感じていますし、困っている方もいると思います。

【及川部長】

市としてはマイナンバーカードを使って頂いて、その部分を切り替えて頂くというのが、うちのスタンスではございます。確かに、今まで使ってきた自動交付機、かなり普及率が高かったんですね、その普及率にまだマイナンバーカードの普及率が達していないこともあってですね、なお一層周知しながら、ＰＲしながら切り替えにはご協力いただきたいというスタンスです。

【上木委員】

そうでしょうね。それは間違いなくそうだなとわかります。であるならばですね、このマイナンバーの活用に関しての助言だとか、広報活動だとか、そっちの方を強化してもらった方が、絶対良いですね。「呼びかけ使いましょう」というキャンペーンだとか、是非そっちの方を進めてもらいたいなと思っています。

【角川会長】

他、ＩＣＴに関してはいかがですか？こんなのがあれば良いな、とか、これは必要なんじゃないか、とか。東さんはいかがですか？

【東委員】

ＩＣＴと関係があるかどうか分からないのですが、石狩市で祭りとかありますよね、ああいう情報がホームページですごく見つらいなと思って、それで厚田の祭りとあ

と、浜益の祭りありますよね？それが1枚にまとめられた状態のパンフレットがただあがってて、回線遅いとかで、パンフレットのダウンロードを待つのも大変だし、なんでパッとインターネット時代にこう欲しい情報が出てこないんだろうと思っていて、割と寒中屋台村もそうですが、イベントごとって、そういう感じの載り方ですよね、

【及川部長】

ホームページが見つらいというのは、非常に大事なことです。あの、何回も出てますね、この話題は。

【東委員】

何故PDFで出すのか？ちゃんと別にリスト打ちすれば良いと思います。単純な予定とかイベント事とかをテキスト打ちして、写真をただ挙げれば良いだけなのに、回線が遅い人とか、大変だな。PDF出てくるのを待たなくてはならないのって、途中で「もういいや。」ってなる人だっていますよね。

【及川部長】

常にその一手間が多い、多くなるんですね。PDFを開かないと情報が得られないってことなので、階層が多いので下に行けなくなっちゃうんですね。

【角川会長】

これは、どこで作ってますか？

【及川部長】

自前で作成出来る様なシステムにはなっています。ですから、それぞれの所管で原稿をつくって、秘書広報課の承認を得れば、そのまま表に出せる様な形になるんですね。その辺の作り方ですね。

【角川会長】

市民サービスを考えるなら、やはりプロ、業者に頼むのも一つの一つの選択肢だと。もちろんお金もかかる話ですけどね。どちらを取るかという話になってしまうんですね。これほど長年見つらいというのが解消されないというのは、何か方法を講じた方が良く思うんですけどね。次、3番「時代変化に対応した、事務事業の最適化と業務形態の変革」です。

【事務局：鎌田】

(3) 時代変化に対応した事務事業の最適化と業務形態の変革

1. 特別簡易型総合評価落札方式（試行）の推進

地域貢献度基準の評価項目に「消防団協力事業所表示制度の認定の有無」を追加しました。H29 年度は消防団協力事業所の項目を追加し入札を 4 件実施しました。

2. 公の施設のアウトソーシングの推進①

H29 年度は、受託者による年間目標「リピーターと親子の利用増による来館者増」の下で取組がなされ、利用者は前年度比約 9 % 増となった。取組として新規事業（企画展など）を実施しています。

3. 【再掲】クラウド技術を活用した情報化の推進(広域化・共同処理)

こちらは、すでに報告済みですので省略いたします。

4. 新たな価値を創出する業務委託手法の検討

窓口サービスの業務委託について、他市町村の状況や研修などに参加し情報収集を行い、調査・研究を行いました。

7. 総合的な交通施策を推進するための組織連携

石狩市地域公共交通活性化協議会を設置。平成 29 年度は 2 回の協議会を開催し「市の公共交通の特性・現状について」などについて、意見を交わしました。

8. 指定管理者の評価の見直し

指定管理施設の運営形態を踏まえた評価区分、評価方法及び評価項目の改正を行いました。主に会館の評価を値で示したものが実績報告形式となっています。

12. 仕事の仕方の改革提案

オペレーションミス防止研修などの業務改善研修を 2 回実施し、また主幹・主査職を対象としましたキャリア（管理職）養成講座を実施しました。

単 4. 契約関係例規の見直しと再編

契約規則、同運用方針等の契約関係例規の見直しと統廃合及び契約マニュアル（事務事業フローを掲載）を改定し、庁内周知を行いました。

【角川会長】

かなり項目があるのですが、この時代変化に対応して、というところがポイントでですね、これは私の主観なんですけれど、最近の石狩市はですね、時代変化への対応、環境変化への対応少し後手かな、という気が若干しております。変化に挑戦していく様、姿勢が全体的に求められているのかな、という主観なんですけど、あるんですね。

この辺も含めまして、ご意見を頂きたいと思います。色々あると思うんですが。本間さん、いかがですか？

【本間委員】

この項目に限らず、この会議自体初心者なもので、ちょっとお聞きしたいんですけど、この年度の、この項目に対して進んでいくという、石狩市さんの流れは分かるんですが、この目標値というところがあるところは、数値化で見えてくるので、達成しているのか、していないのか、効率的なものが見えるのですが、例えば個別具体的に年度別取組み事項が書いているところがあるものと年度別で同じ内容がずっと書かれていて、実績になって初めて見えてくるものもあるんですけど、内部で、評価の仕方とか達成率っていうのは、どういう形で評価しているのかな？ということをお聞きしたいんですけど。

【森本課長】

まず、この実施計画自体が、単年度で終わるものと、長い年数かけてやるものと2つに大きく分かれております。この大綱を作って実施計画を作る時、やはり市の実情といきますと、行政改革は結構進んでいると、指定管理者制度を運用したり民間の方に委託したりですね、含めて進んでいるということですね。メニュー自体、単年度で終わるのが結構少なくなってきたというのが現状でありました。それも踏まえて、長期的にこれからの時代に向けて長期でやれるか、やれないか検討し、チャレンジしていきかなきゃならないということが、前回の大綱の中で取り上げられました。それでメニュー的に見ると、長い年数かけてやるものが、多く積極的に取り込んだ、というのがこの大綱と実施計画になってございます。

そういったことから、実際作るにあたっては、同じ内容が載っているというのもあるんですけど、最終的には所管に対し、こういうものやってください、ああいうものやってください。というものをですね、ある程度強く言いながら、メニュー化してございますので、年度別で同じ様な内容を書いているものというのは、そういった経緯から成っているということで、ご理解頂きたいです。事務局は各所管とヒアリングは毎年することになってございますが、その中で見直していく考えでございます。

評価とか達成率は、懇話会の中でも色々のご意見を頂いているところでございまして、実際目標値って出てるものが、ほとんど少ないもので、実際削った方が良いんじゃないか？というご意見も頂いております。但し、この辺あまり数値で出せないものが多いのであれば、そこを削っていくというのも一つの考えであると思っております。そういったことから、なかなか数字で私達も実績でどれくらい達成したとか、こういう数字で表そうとしているところでございますけれども、この目標値自体が数字で出ていないことをご理解いただければな、と思っております。

【角川会長】

なかなか難しいところがあるのかな、いや、この話題は、いつもですよ、9ページの、例えばね「北石狩衛生センターの将来型、近隣自治体との広域的な調査・検討を進める」って何を、どの様に具体的に、というのが全く明文化されていない状況です。前と比べてどうだったんだ、一步一步前進していくっていう姿勢はすごく良いと思うんです。けど、もうちょっと具体的に書いてもらわないとですね。

私からは、例えば6ページの総合評価、実は具体的に書いてる訳ですよ。30年度は地域貢献度基準項目の追加をしますよ、32年度は企業の施行能力の追加をしますよ、と。これ、具体的ですよ、という風に。そういう様な証言の方が、絶対私は良いと思います。ただし、この総合評価ですね、これは繰り返し言わせて頂きますけれど、こんなの1年で出来るんですよ。何故5年に分ける必要があるのか、というところなんですよ。専門分野なのでどうしても言いますが、工事点数というのは、企業の施行能力です。まずこれを公表して、それで総合評価の科目にすれば良いですね。障がい者雇用だとか、地域ボランティアとか、若手技術者雇用とか色々あるんですけど、たとえ0点でも入れて公表しておけば、企業は努力する訳ですよ。障がい者さんの雇用や、若手技術者を入れようとか、項目があれば、そこに向かって進むはずなんです。より競争力もそこで生まれる訳ですから。これは、一年で絶対出来ると思います。所管課へ、もう一度言ってみて欲しいな、という風に思います。

【及川部長】

ヒアリングで、その辺については十分話し合いをしていきたいと思います。

【角川会長】

他はいかがでしょうか？

【上木委員】

9ページの12番の、仕事の仕方の改革提案なんですけど、これ、実績がオペレーションミスの研修ってあるんですけど、実際にミスは減ったのでしょうか？

【及川部長】

ミスはですね、無くなってはいないですね。最近多いのが、システムに関するミスが多くなってきています。何かというと、古い職員であれば、手仕事をやってきたことが、システムが入ったことによって、それが軽減されている。システムの中で何が行われているか、ってことが、古い職員なら分かるんですね。こういうものを入れてインプットすれば、中でこういう作業をしてどんなものが出る、それをイメージしながら、

その手間を省く為に、システムを入れているんだということまで理解しているんですが、最近、その部分がきちんと伝承されていないということもあるのです。こう作業し、こういうものを入れて出てきたものはそのまま正しいんだ、そのまま使えるんだ、という様な考えになっている傾向もあるんです。ですから、システムを疑ってかかる。こういうものを入れて、中でこういうことをするから、こういうものが出てくるんだけど、おかしいな、という様に考えが及ばないこともあったりします。特に間違いが起きるタイミングっていうのは5年くらいを周期として、システム入れ替えるんですけど、その時に起こり易い。要するに、何をさせるシステムなのか、ということを理解していないので、ものが変わった段階で、どこを注意して見ないとダメだっていう部分が、注意力が散漫になってしまっていて、結果的に間違っただけのものを市民の皆さんに出してしまうことが最近ありました。どういった対策をとるかという部分については、最近の採用の職員もですね、情報のエキスパートというんですかね、そういう職員を増やすというのも一つですし、あと業務がわかる職員を現場につけて、そこを見てもらって、という様な形で対応はしています。

【角川会長】

次4番の方に進めていきたいと思います。それでは、お願いします。

【事務局：鎌田】

(4) 時代変化に対応する人材育成と働きやすい環境の推進

1. 仕事と生活の調和が取れた働き方の推進

速報値として時間外勤務職員中の上限規制該当者は、年間720時間超は5名でした。

2. 活力ある組織づくりへの取り組み

定員適正化計画及び人材育成基本方針に基づき専門職を含め計画的に職員を採用した。また、研修計画に基づき新人職員や若手職員（採用から5年目）の研修に力を入れるなど、様々な研修を実施しました。

3. 職員の健康づくりの取り組み

ストレスチェックの実施と分析を行ったほか、月1回の産業医面談や毎週水曜日のよろず相談など実施、さらに総合健診受診率が向上しました。(89.6%→94.5%)

さらに翌年度に向けて健診結果データ化の準備・作業を行っています。

4. 臨時職員及び非常勤職員の任用等の在り方の検討

国のマニュアルを受け臨時職員・非常勤職員を採用する担当課長職による検討会議を3回実施し、実態把握に努め今後の方向性を検討しました。

【角川会長】

時代変化に対応する人材育成と働きやすい環境の推進、先程のお話しは、働き方改革とかメンタルヘルスの部分だとか、或いは再任用、ベテランの方の活用、活躍の場を増やすという様な内容ですね。こちらご意見お持ちの方、1人、2人ぐらいお願いします。

【飯尾副会長】

人材育成ということで、様々な研修だとか能力向上だとか、前の（3）のところの仕事の仕方改革などから出てくる、外部機関ってありますけど、実際こう若手研修、新人研修など、民間の企業の研修施設に出して研修をさせるということは、あるんでしょうか？というのも、2年前に懇話会に参加し、最初の現地視察の「桃太郎便の北海道丸とロジスティックス」あの職員研修のすごいというのもビックリしたんですけども、やはり地域力があって、お客様があって、家族があって、それを理解出来ない者は、仕事をする資格は無いんだ、ということから始まって、まさしくあの精神が企業を作っていくんだなという風を感じた。例えばそういう様なところに職員を出して研修する、させるという、外部委託はあるんですよね？

【森本課長】

外部委託、若手職員の研修については、民間の会社から講師を呼んで、また副会長の言われた会社の方も実際に来て頂いて、過去にやったことがあります。但し、職員を民間企業に行かせるというのは、ケースとしては無くて、例えば、公務員専門のアカデミーみたいな感じのところの研修を活かそうというのは、積極的にしています。民間企業に行かせて研修をするという取組みは無いですね。

【飯尾副会長】

法律上とか条例上無理だったりするんですかね。

【森本課長】

短期であれば、難しいことでは無いです。どこの会社に行かすとか、課題も出てきますので。

【及川部長】

過去、北海道銀行さんの方には、職員を出している実績はありますね。

【森本課長】

ホテル業界を学んでください、というのは、過去には窓口で役立てるといえるのはありました。

デイサービスに行くという企画を前にしたことがあるんですが、デイサービス側で受け入れが難しく、なかなか知らない人が来ても受け入れてもらえない、向こうの制約で企画しても断られてしまう、受け入れ先も含め課題もあると思います。

【及川部長】

大事な事ですし、地域があって我々があるという位置づけですね。形を変えてでもそういう事については、外部研修の中で何か出来る事は無いかと常々思っているところです。例えば新任職員研修のなかで石狩市の成り立ちはどうなっているか、なぜ団地ができたのか当時の時代背景そういった事も含めて石狩を多く知ってもらって改めて石狩市を好きになってもらう。やっぱりPRしてもらわなきゃダメだと思う。そういった所に気持ちを配っているつもりであります。

【飯尾副会長】

他の自治体がどのような取り組みをやっているのか、若手研修とかね外部の派遣という様な、そういった事も調査研究していただければと、いう風に思っています。

【角川会長】

最後5番目を事務局お願いします。

【事務局：鎌田】

(5) 健全な財政基盤の構築

1から7については、決算が終わるまでは数値が確定しませんので別の機会に報告いたします。

8. 公共施設等の最適な配置

し尿処理施設を廃止しています。第2給食センターは取り壊ししています。柏水会館及び漁民団地会館は廃止しています。石狩消防団第5分団詰所は売却しています。旧浜益学校給食センターも売却しています。旧浜益教員住宅は売却と取り壊しを実施しています。旧浜益職員住宅も取り壊ししています。

【角川会長】

花川南と緑苑台の浄水場はどうなっていますか？

【及川部長】

水道施設として残っています。市では検討していますが水を取り扱うプラントなので一般的に使えるものになかなか出来ないという難しい状況です。

【角川会長】

花川南は老朽化してますが、面積があるのでもったいないですね。緑苑台は新しいです、売却とかもやりやすいと思いますので、考えていただければと思います。

では、会の最後に全体で質問をお受けしますので、先に進めます。

次第 3

議題 3 平成 30 年度行政改革懇話会の進め方について

【事務局：鎌田】

平成 30 年度の本懇話会の開催についてですが、行革大綱 2021 の推進サイクルでは、「前年度進捗の審議・評価」・「次年度の実施計画への意見提言・審議」をいただくこととなっております。各実施時期については、第 2 回を 9 月上旬、こちらは現地視察、7 月実施予定のヒアリング結果報告をさせていただく予定です。第 3 回は、10 月下旬を予定し実施計画（30 年度版）の進捗状況、そして 31 年度の実施計画策定に向け懇話会内で意見を求めたいと思っております。第 4 回は、平成 31 年 3 月上旬という事で 31 年度計画の審議を頂く予定です。

【角川会長】

本懇話会の開催は、基本的に実施事業の実績や次年度の事業検討スケジュールに連動している事なので、事務局提案の時期を基本的な軸として進めていく事になっております。今年度はこうしたいという意見があれば是非積極的にお願いします。

過去には K J 法による意見交換などあらゆる可能性があるのですが、お聞かせいただきたいのですが、いかがですか？現地視察は皆さん興味があると思いますが。

9 月上旬に視察という事ですがヒアリングの経過については、どのような形で？

【森本課長】

7 月にヒアリングを予定していますので、結果はペーパーで渡し見て頂く事もできるかと思っています。

【角川会長】

私としては、現地視察をするのであれば、そちらを重点に置いて複数箇所を廻ったほうが良いかと、いかがでしょうか？

【松谷委員】

可能であれば北6条町内会へ

【角川会長】

では今年度は事務局提案をお願いします。全体で何か意見はありますか？

【能村委員】

日程1年間の予定ですけど、こういったものがあると分かりやすいです。それで、さっきも話題になりましたが実施計画の年度ごとの取組内容は、具体的に書くまたは、内容を変えるというのが通常の方法だと思います。そこのチャレンジも良いのではないかと思います。具体的にすることで新しい風になれるのかなとおもうので、5年間似たようなことをみるより変化があったりきちんと目的がみえる事でやりやすくなったりやりがいになったりする働く側にもプラスがついてくると思います。

あとは、新しい職員さんに色々と知ってもらうPRするって事が大事だっていうことで改めて思ったのは、今のSNSの時代で一人一人が結構力をもっているという事です。それはフェイスブックで記事を書くまでいなくてもフェイスブックで石狩の事を発信している方に「いいね」を押すという、これだけでも書いている側にはとても励みになります。実はそういう力を職員皆さん持っているんだということで小さな参加でも良いので是非協力していける体制になっていければと良いかなと思います。

【及川部長】

実施計画として公開する関係上、まだ決まっていないものについては、あたかも決まっているかのように出しづらいという事もありますので、ご理解いただきたいと思っています。またSNSの部分については、これからも少し我々も研究させて頂いて何ができるのか考えていきたいと思っています。

【角川会長】

第2回は9月上旬という事で最後に事務局からありますか。

【事務局：鎌田】

日程につきましては、後日メール・FAXでご連絡いたします。

【角川会長】

本日はこれで散会したいと思います。委員のみなさま本日は大変お疲れ様でした。

(閉会)

平成30年 7月 5日 議事録確定

石狩市行政改革懇話会 会長 角 川 幸 治